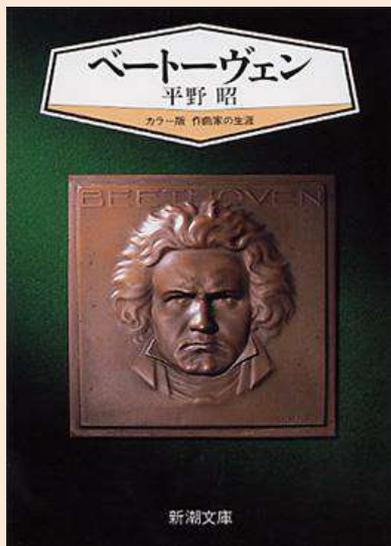


第177回
愛知学院大学モーニングセミナー

「ベートーベン生誕250年」
～ 《第九》交響曲に託したメッセージ～



静岡文化芸術大学 名誉教授
音楽評論家 平野 昭

2020年12月8日

F.シラーのオーデ

An die Freude

第1稿

シラー「歡喜に寄せて」

第1節オリジナル

(1785年作・86年発表)

S y n a l l a.

Zweytes Heft.

I.

An die Freude.

Freude, schöner Götterfunken,
Lechter aus Elisium,
Wir betreten feuertrunken
Himmliſche, dein Heiligthum.
Deine Zauber binden wieder,
was der Mode Schwere getheilt;
Lerker werden Fürſtenbrüder,
wo dein sanfter Flügel weilt.

C h o r.

Sich umschlingen Millionen!
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder — überm Sternenzelt
Kuß ein lieber Vater wehnen.

歡喜に寄せて

最初の作曲例

シラーの友人Chr. G. ケルナー(1756-1831)か？

Nicht zu geschwind.

Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium,
Wir betreten Feuersbrunn, Götterliedes heiligstüm,
Deine Huld betrubt uns
wie der, was die Noth Schwerdtgeheilt; Bettler werden Fürstenkinder,
Ihr dankt auf der Hügel weilt. Seyd uns schlange Wisst, die feue Lust der ganz jeh Welt;

Chor.

Freude, die dem Sterben, jetzt muß ein lieber Vater wohnen, muß ein lieber Vater wohnen.

Das Chor wird nach Art der Symphonie in willkürlichem Takte gesungen. Stärke und Haltung des Tons hängt von dem Accente ab, den der Inhalt des Textes bei jeder Silbe bestimmt.

歡喜に寄せて

ト音記号への書き直し©平野 昭

Nicht zu geschwind

The first system of musical notation for 'Nicht zu geschwind' consists of two staves. The upper staff is in treble clef and the lower staff is in bass clef. The time signature is 2/4. The music begins with a quarter rest in the bass staff and a quarter note in the treble staff. The melody in the treble staff is characterized by eighth-note patterns and rests, while the bass staff provides a steady accompaniment of quarter notes.

The second system continues the piece. It features more complex rhythmic patterns in the treble staff, including sixteenth-note runs and eighth-note chords. The bass staff continues with a simple quarter-note accompaniment. The system concludes with a quarter rest in the bass staff and a quarter note in the treble staff.

Chor

The third system, labeled 'Chor', begins with a treble clef and a bass clef. The treble staff contains a series of chords, some with fermatas, while the bass staff has a simple accompaniment of quarter notes. The system ends with a final chord in the treble staff and a quarter note in the bass staff.

The fourth system continues the 'Chor' section. It features a series of chords in the treble staff, some with fermatas, and a simple accompaniment in the bass staff. The system concludes with a final chord in the treble staff and a quarter note in the bass staff.

ベートーヴェンの直筆

プロイセン国王ウィルヘルム三世への献辞

Sinfonie

mit Aufschluß über Schillers obige an die Freunde;
für großes Orchester: 4 Solo und 4 Chorstimmen,
seiner ^{Componist: und} Majestät dem Allerhöchsten Kaiser

Friedrich Wilhelm III

in Königsberg Anfang März

stündig ^{ahn} von Beethoven:

125 h. 2011

■交響曲第9番ニ短調作品125《合唱付き》

作曲：1818年、1822年～24年2月

歌詞：フリードリヒ・フォン・シラー（1759～1805）の頌詩《歓喜に寄せて》

初演：1824年5月7日、ケルトナートーア劇場。同月23日再演、宮廷舞踏会場

総指揮：ベートーヴェン

指揮者：ウムラウフ（1781～1842、ウィーン宮廷楽長）

オーケストラは5月7日が、弦楽器第1、第2ヴァイオリン=各12、
ヴィオラ=10、チェロとコントラバス=12、管楽器=2管編成の倍管。

5月23日は、第1、第2ヴァイオリンが各2人ずつ増強されて各14、他は7日と同じ。

コンサートマスター：I.シュパンツィヒ（1776～1830）

Sop.：H.ゾンターク（1806～54）18歳

Alt.：K.ウンガー（1803～77）21歳

Ten.：A.ハイツィンガー（1796～1869）28歳

Bar.：J.ザイペルト（1787～1847）37歳

合唱：ケルトナートーア劇場合唱団他（各声部25人前後）、ソプラノとアルトは
劇場付属の少年合唱団32人が16人ずつに分かれ、これに各パート10人前
後のアマチュア歌手（女性）が加わった。また、劇場所属の男性合唱団は34
人いたので、これにアマチュアが15人ほど加わって、テノールとバスで50
人前後の編成。全体で約100人の合唱。

編成：2pic.,2fl.,2ob.,2cl.,2fg.,kfg.,4cor.,2trp.,3trb.,timp.,cymb.,gran cassa, 5str.

Soli(sop., alt., ten.,bar.) chor.

出版：1826年8月、マインツのB.ショット社、アナトワープのA.ショット社
スコア譜、パート譜および第4楽章ピアノ編曲版ヴォーカル・スコア同時出版
（この初版譜スコアは慶應義塾三田図書館・所蔵）

献呈：プロイセン国王フリードリヒ・ヴィルヘルム三世

【楽章構成】

第1楽章Allgroma non troppo, un poco maestosoニ短調2/4全547小節

第2楽章Molto vivaceニ短調3/4全559小節（実質、スケルツォ楽章）

第3楽章Adagio molto e cantabile変口長調4/4全157小節

第4楽章Prestoニ短調3/4拍子～Allegro assaiニ長調4/4全940小節

1) 交響曲としての革新的特性

- ①第1楽章開始の空白五度（イ音－ホ音）の神秘・・・調性のヴェール
- ②第1楽章第2主題は変口長調（第80小節から・・・緩徐楽章調性への布石と統一
- ③第2楽章にスケルツォ（主調の二短調）・・・中間楽章配列の倒置
- ④第3楽章にアダージョ（主調の長3度下調）・・・短調作品の緩徐楽章
- ⑤終楽章開始和音の不協和（バス音＝イ音&ソプラノ音＝変口音）・・・恐怖の響き

2) 特異な楽章構成法と既存形式の革新的応用

- ①スケルツォ楽章（第2楽章）は伝統的な単純な複合三部形式ではなく、スケルツォ主部（第1～414小節）自体がソナタ形式構成をとっている。
- ②アダージョ楽章（第3楽章）も伝統的な歌謡三部形式ではなく、ロンド形式的循環と2主題によるソナタ形式構成の中間的特性を持ち、展開に変奏曲技法を用いている：
 - I. アダージョ・モルト・エ・カンタービレ変口長調4/4拍子。主要主題（第1～24小節）。
 - II. アンダンテ・モデラート二長調3/4拍子。副主題（第25～42小節）。
 - III. テンポ・プリモ変口長調4/4拍子。主題の変奏展開（第43～64小節）。
 - IV. アンダンテ・モデラート二長調3/4拍子。II部の楽器法、II部の弦楽器中心の構成を、ここでは木管楽器と入れ替える（第65～82小節）。
 - V. アダージョ変ホ長調4/4拍子。間奏楽段（第83～98小節）
 - VI. リステッソ・テンポ変口長調12/8拍子。主要主題の変奏展開であるが、第1ヴァイオリン声部に16分音符によるオブリガート対旋律加わっている（第99～114小節）。
 - VII. 移行句（第115～122小節）。
 - VIII. 終結部。主要主題の回想と変奏的発展、VI部のヴァイオリン・オブリガート素材も使われる（第123～157小節）。
- ③終楽章（第4楽章）あえて名づければ「混合形式」。既存の多種多様な形式の原理を応用しながら、全曲の統一を図る。「協奏的ソナタ形式」として捉えることも可能。

- 協奏曲の協奏楽器を声楽（4部合唱と4重唱）に置き換えた形式構成として分析；
- 第1部（前半）：オーケストラ提示部に相当する。
 - 第2部（後半）：コンチェルティーノ〈バリトン独唱〉登場による主題の再呈示。
 - 第3部：テノール独唱によって始まる「トルコ行進曲風楽段」。
 - 第4部：「教会音楽風コラール楽段」。
 - 第5部：「二重フーガ」、ソプラノとアルトvs テノールとバスの合唱フーガ。
 - 第6部：「カデンツァ（四重唱）」終結部直前に置かれる協奏曲カデンツァ。
 - 第7部：「コーダ＝プレスティッシモ」

3) 開放循環形式による全曲の有機的統一

【ベートーヴェン自身によるキーワードの前置詩句Nicht diese Töne !】

「開放的循環形式」とは楽章枠を超えて先行楽章の主題が回帰、引用、再現される音楽構成。《第九》の第4楽章の第I部には第1～3楽章の開始主題が順次回想される。

Oh Freunde, nicht diese Töne !おお、友よ、このような調べではない！

sondern laßt uns angenehmere anstimmen,もっと心地よい調べに声を合わせよう、
und freudenvollere !喜びに満ちた調べに！

冒頭の3行詩第1行「nicht diese Töne このような調べ（響き）ではない」の「このような」とは直前の旋律（主題）や響きを〔否定する〕重要な機能をもつレチタティーヴォ。

バリトン独唱によって明らかにされるこの言葉の旋律は第4楽章開始部第8小節からのチェロ＝バスのレチタティーヴォで示される。つまり、チェロ＝バスのレチタティーヴォの謎（意味）が、第2部のバリトン独唱によって明かされるという仕掛けになっている。

第1部（協奏ソナタ形式におけるオーケストラ呈示部）の構成：

「恐怖のファンファーレ」 T.1～7→

「Vc.=Kb.否定のレチタティーヴォ」 T.8～16→

「恐怖のファンファーレ」 T.17～24→

「否定」 T.25～29→

「第1楽章主題の回想」 T.30~37→

「否定」 T.38~47→

「第2楽章主題の回想」 T.48~55→

「否定」 T.56~62→

「第3楽章主題の回想」 T.63~64→

「逡巡~否定」 T.65~74→

「妥協動機」 T.77~80→

「否定」 T.81~91→

「妥協動機の発展形として《歓喜主題》呈示」 T.92~115→

「主題の発展」 T.116~163→

「トゥッティによる主題確保」 T.164~187→

「呈示部コデッタ」 T.168~207.

第2部（第2呈示部）

「恐怖のファンファーレ」 T.208~215

「バリトン独唱による否定（ベートーヴェン詩）のレチタティーヴォ」 T.216~236→

これ以降は協奏曲ソナタ形式によるコンチェルティーノとしての声楽による呈示部。

4) シラーF. v. Schillerの頌詩 (Ode) “An die Freude”

1786年刊行『ラインのターリア』第2号掲載オリジナル（日本語訳：平野昭）

【第1節】

Freude, schöner Götterfunken,喜びよ、美しい神々の火花よ、
Tochter aus Elisium,エリジオン（楽園）の娘よ、
Wir betreten feuertrunkenわれら炎に酔いしれ
Himmliche, dein Heiligthum.天上なるものよ、あなたの神殿に入る。
Deine Zauber binden wieder,あなたの不思議な力が再び結びつける
was der Mode Schwert getheilt;世の慣わしという剣が分け隔てた物を。
Bettler werden Fürstenbrüder,乞食が王侯の兄弟となる
wo dein sanfter Flügel weilt.あなたの優しい翼の憩うところで。

(Chor)

Seid umschlungen Millionen !抱きあえ、もろびとよ（百万の人々よ）！
Diesen Kuß der ganzen Welt !このくちづけを全世界に！
Brüder überm Sternenzelt兄弟たちよ、星空の彼方には
muß ein lieber Vater wohnen.必ずや愛しき父が住んでいるにちがいない。

【第2節】

Wem der große Wurf gelungen,大きな賜物に恵まれ、
eines Freundes Freund zu seyn;ひとりの友の友となりえた者は
wer ein holdes Weib errungen,優しい妻を勝ちえた者は
mische seinen Jubel ein !歓喜の声に加わるが良い！
Ja,wer auch nur eine Seeleそう、たったひとりであるとしても
sein nennt auf dem Erdenrund !地上に友と呼べる者がいる者も！
Und wer' s nie gekonnt, der stehleそれを成しえなかった者は、そっと
weinend sich aus diesem Bund !涙を流してこの集まりから去るがよい！

(Chor)

Was den großen Ring bewohnetこの大なる輪（地球）に住し者は
huldiger Simpathie !共感に敬意を表せよ！
Zu den Sternen leitet sie,それは星々へと導くだろう、
Wo der Unbekannte tronet.未知なるものが君臨しているところへと。

【第3節】

Freude trinken alle Wesen 生きとし生けるものすべては
An den Brüsten der Natur, 自然の乳房から歓喜を飲み、
Alle Guten, alle Bösen 善なる者すべて、悪なる者すべてが
folgen ihrer Rosenspur. そのバラの花道をたどる。

Kü ße gab sie uns und Reben, (歓喜は) 私たちにくちづけと葡萄酒を、
einen Freund, gepr ü ft im Tod. 死の試練にも奪われぬ一人の友を与えた、
Wollust ward dem Wurm gegeben, 快樂は虫けらにも与えられ、
und der Cherub sthet vor Gott. ケルビム (智天使) は神の前に立つ。

(Chor)

Ihr st ü rzt nieder, Millionen ? ひざまずくのか、もろびとよ？

Ahndest du den Sch ö pfer, Welt ? 世界よ、創造主の存在を予感しないか？

Such' ihn ü berm Sternenzelt, 星空の彼方に創造主を求めよ、

ü ber Sternen mu ß er whonen. 星々の彼方に必ずやかれは住んでいる。

【第4節】

Freude hei ß t die starke Feder 歓喜は強力なバネである
in der ewigen Natur. 永久なる自然の中にある。

Freude, Freude treibt die R ä der 歓喜、歓喜は歯車をまわす
in der gro ß en Weltenuhr. 大いなる世界時計の中で。

Blumen lockt sie aus den Keimen, それ (歓喜) は芽から花々を誘い出し、
Sonnen aus dem Firmament, 蒼穹から星々を誘い出し、

Sph ä ren rollt sie in den R ä umen, 天球を空間において回転させる、
die des Sehers Rohr nicht kennt ! 観察者の望遠鏡では知りえない天球を！

(Chor)

Froh, wie seine Sonnen fliegen, 楽しげに、星々が飛翔するように、
durch des Himmels pr ä chtigen Plan, 天空の壮麗な軌跡を描くように、

Laufet, Br ü der, eure Bahn, 走れ兄弟たちよ、おのれの道を、
freudig wie ein Held zum siegen. 英雄が勝利に向かうように喜び勇み。

【第5節】

Aus der Waheheit Feuerspiegel 眞実の炎の鏡から

l ä chelt sie den Forscher an. それ (歓喜) は探究者に微笑みかける。

Zu der Tugend steilem H ü gel 急な坂道の丘の上にある美德へと、

leitet sie des Dulders Bahn. それは耐える者の道を導く。

Auf des Glaubens Sonnenberge 信仰の陽光輝く山の上に

sieht man ihre Fahnen when, 歓喜の旗が翻るのを見る、
Durch den Ri ß gesprengter S ä rge 壊れ散った棺の間から
sie im Chor der Engel stehn. 天使たちの合唱の輪の中に居るのが見える。

(Chor)

Duldet mutig, Millionen ! 勇気をもって耐えよ、もろびとよ !
Duldet für be ß re Welt ! より良い世界のために耐えよ !
Droben überm Sternenzelt 星空の彼方のさらなら上にいる
wird ein großer Gott belohnen. ひとりの偉大な神が報いてくれよう。

【第6節】

Göttern kann man nicht vergelten, 神々にひとは十分報いることは叶わない、
schön ist ihnen gleich zu seyn. かれらと同じであればすばらしいのだが。
Gram und Armut soll sich melden 心の痛みと貧困が姿を現し
mit den Frohen sich erfreuen. 喜ばしいものと一緒に歓喜する。
Groll und Rache sei vergessen, 恨みと復讐心は忘れ去られ、
unserem Todfeind sei verziehn われらの仇敵も許される
Keine Thr ä ne soll ihn pressen, 涙が彼を苦しめることなく、
keine Reue nage ihn. 遺恨が彼を苛むことないように。

(Chor)

Unser Schuldbuch sei vernichtet ! われらの罪状記録がなくなるように !
ausgehöhnt die ganze Welt ! 全世界が和解するように !
Brüder, überm Sternzelt 兄弟たちよ、 星空の彼方で
richtet Gott wie wir gerichtet. 神はわれわれが裁かれたように裁くのだ。

【第7節】

Freude sprudelt in Pokalen 歓喜は玉杯にあふれ出し
in der Traube goldnem Blut 葡萄の房の金色の血となり
trinken Sanftmut Kannibalen, 残忍な人々は柔和を飲む、
Die Verzweiflung Heldenmut 絶望した者たちは英雄の勇気を飲む。
Brüder fliegt von euren Sitzen, 兄弟たちよお前たちの席から飛びたて、
wenn der volle Römer krait, 満ち満ちた杯がめぐってきたなら、
Laßt den Schaum zum Himmel sprützen: 泡を天上まで吹き飛ばそう。
Dieses Glas dem guten Geist. このグラスを良き精神のために。

(Chor)

Den der Sterne Wirbel loben, 星の転回が讃え、
den des Seraphas Hymne preist, ゼラフィム（六翼天使）の賛歌が褒める、

Dieses Glas zum guten Geist,このグラスを良き精神のために、
überm Sternenzelt dort oben !星空の彼方、その上にある（精神のため）。

【第8節】

Festen Mut in schweren Leiden,つらい苦しみの中での確たる勇氣、
Hülfe, wo die Unschuld weint,助けよ、無実の罪で泣く人を、
Ewigkeit geschwornen Eiden,交わした誓いは永遠に、
Wahrheit gegen Freund und Feind,友と敵にも真実を、
Männerstolz vor Königstronen,王の玉座の前での男の誇りを、
Brüder, gält' es Gut und Blut-兄弟たちよ、善なるものと血に重きを、
Dem Verdienste seine Kronen,輝かしい業績には王冠を、
Untergang der Lügenbrut !嘘をつく者たちには没落を！

(Chor)

Schließt den heiligen Zirkel dichter,聖なる輪をしっかりと閉じ、
schwört bei diesem goldnem Wein :この金色の葡萄酒に誓おう。
Dem Gelübde true zu sein,誓約に正直であれ、
schwört es beidem Sternenrichter !星の裁判官にも誓おうではないか！

【第9節】

Rettung von Titanenketten,暴君の鎖からの救出を、
Großmut auch dem Bösewicht,悪漢に対しても寛大さを、
Hoffnung auf den Sterbebetten,死の床にあっても希望を、
Gnade auf dem Hochgericht !最高審判のときに恩寵を！
Auch die Toden sollen leben !そして死せる者も生きよ！
Brüder trinkt und stimmt ein,兄弟たちよ、飲んで声を合わせよう、
Allen Sündern soll vergeben,すべての罪人も許されるだろう、
und die Hölle nicht mehr seyn.そして、もはや地獄は無くなるだろう。

(Chor)

Eine heitre Abschiedstunde !明らかな別れの時がきた！
süßen Schlaf im Leichentuch !死装束での甘き眠り！
Brüder , einen sanften Spruch兄弟たちよ、優しい裁きを、
aus des Todenrichters Munde !死を裁く者の口からでさえ。
頌詩「An die Freude歓喜に寄す」のオリジナルは全9節構成であった。
各節はヴァース8行とコーラス4行の計12行、全9節106行であった。

5) ベートーヴェンが「第九」終楽章に用いたテキスト（歌詞）

頌詩Ode「歓喜に寄すAn die Freude」は1785年に書かれたもので、翌86年にシラーの主宰する文芸誌『ラインのターリアReinische Thalia』第2号に収載されて、これが初版（オリジナル）となっている。この第2号の巻頭には、早くも「歓喜に寄す」をテキストとして作曲された有節歌曲の楽譜が印刷されているが、そこに作曲者名はない。現在では、作曲者不詳のこの曲がシラーの友人で文学と音楽に造詣の深いザクセン選帝侯国上級宗務局参事官クリスチャン・ゴットフリート・ケルナー(1756~1831)であることが判明している（図像参照：頌詩第1節と三部合唱曲）。

しかし、「第九」に用いられた歌詞は1785年成立のオリジナルとは大きく異なっている。シラーは1803年に自作選集の出版準備しているときに、すでにこの頌詩がオリジナルの詩句で多くの作曲家により通俗的な合唱曲として作曲されていることに違和感を覚え改訂の手を加えている。改訂は検閲による出版禁止を回避するために必要であった。王侯貴族や官憲に対して過激と思われる言葉を入れ替え、政治色の濃い第9節全体を削除するという大きな改訂となった。シラーの自選集は1805年に訪れた自らの死により実現しなかったが、改訂稿は1808~10年に出版されたシラー全集に反映されることになった。

（参考：1824年までに、シューベルトの男声合唱曲D.189を含め40以上付曲：試聴）。

6) ベートーヴェンの自由な選択と自作詩3行の前置

《第九》に用いた1803年改訂稿の頌詩全体（第1節から第8節）を1V=第1節ヴァース8行、1C=第1節コーラス4行と記号化すると、《第九》のテキストは：1V→2V→3V→4C→1C→3Cとなり、ベートーヴェンは頌詩の第1節から第4節までから選択し、第4節は後半のコーラス4行だけを、また、第2節は前半のヴァース8行だけを使っている。全96行の頌詩から36行だけを選び、自由に順序を入れ替えているのである。

■《第九》の歌詞『歓喜に寄す』より

【第1節ヴァース8行】

Freude, schöner Götterfunken,喜びよ、美しい神々の火花よ、
Tochter aus Elisium,エリジオン（樂園）の娘よ、
Wir betreten feuertrunkenわれら炎に酔いしれ
Himmliche, dein Heiligthum.天上なるものよ、あなた神殿に入る。
Deine Zauber binden wieder,あなたの不思議な力が再び結びつける
was die Mode streng geteilt;世の慣わしが厳しく分け隔てた物を。
Alle Menschen werden Brüder,すべての人々が兄弟となる
wo dein sanfter Flügel weilt.あなたの優しい翼の憩うところで。

【第2節ヴァース8行】

Wem der große Wurf gelungen,大きな賜物に恵まれ、
eines Freundes Freund zu seyn;ひとりの友の友となりえた者は
wer ein holdes Weib errungen,優しい妻を勝ちえた者は
mische seinen Jubel ein !歓喜の声に加わるが良い！
Ja-wer auch nureine Seeleそう、たったひとりであるとしても
sein nennt auf dem Erdenrund !地上に友と呼べる者がいる者も！
Und wer' s nie gekonnt, der stehleそれを成しえなかった者は、そっと
weinend sich aus diesem Bund !涙を流してこの集まりから去るがよい！

【第3節ヴァース8行】

Freude trinken alle Wesen生きとし生けるものすべては
An den Brüstender Natur,自然の乳房から歓喜を飲み、
Alle Guten, alle Bösen善なる者すべて、悪なる者すべてが
folgen ihrer Rosenspur.そのバラの花道をたどる。
Kü ße gab sie uns und Reben,（歓喜は）私たちにくちづけと葡萄酒を、
einen Freund, gepr üft im Tod.死の試練にも奪われぬ一人の友を与えた、
Wollust ward dem Wurm gegeben,快樂は虫けらにも与えられ、
und der Cherub sthet vor Gott.ケルビム（智天使）は神の前に立つ。

【第4節コーラス4行】

Froh, wie seine Sonnen fliegen,楽しげに、星々が飛翔するように、
durch des Himmels prächtigen Plan,天空の壮麗な軌跡を描くように、
Laufet, Brüder, eure Bahn,★走れ兄弟たちよ、おのれの道を、★
freudig wie ein Held zum Siegen.英雄が勝利に向かうように喜び勇み。

【第1節コーラス4行】

Seid umschlungen Millionen !抱きあえ、もろびとよ（百万の人々よ）！
Diesen Kuß der ganzen Welt !このくちづけを全世界に！
Brüder, überm Sternenzelt兄弟たちよ、星空の彼方には
mu ß ein lieber Vater wohnen.必ずや愛しき父が住んでいるにちがいない。

【第3節コーラス4行】

Ihr stürzt nieder, Millionen ?ひざまずくのか、もろびとよ？
Ahndest du den Schöpfer, Welt ?世界よ、創造主の存在を予感しないか？
Such' ihn überm Sternenzelt,星空の彼方に創造主を求めよ、
über Sternen mu ß er wohnen.星々の彼方に必ずやかれは住んでいる。

★ この1行のみ1785年のオリジナル稿の言葉が使われている。

★ 1803年改訂では、Wandelt, Brüder, eure Bahn, と改訂されるが、「さまよい歩く」「逍遙する」というwandelnではなく「走る」というlaufenが使われている。

7) シラーの頌詩の改訂

【改訂例】

1786年稿1803年稿

I v-4 Gottliche (正しくはGöttliche) → Himmlische

「神々しい」→「天の国の」

I v-6 Schwerdt getheilt (現代ではSchwert) → streng geteilt

「武力(刀剣)が引き裂いた」→「厳しく引き裂いた」

I v-7 Bettler werden Fürstenbrüder → Alle Menschen werden Brüder

「乞食が王侯の兄弟となる」→「すべての人々が兄弟となる」

IVc-3 Wandelt, Brüder, → Laufet, Brüder, (1808)

「さまよえよ兄弟たちよ」→「走り進めよ兄弟たちよ」

これらの改訂は明らかに出版に際して宮廷検閲局の出版差し止めを回避するために不穏当な言葉を削除し、一般的な言葉に差し替えたものと思われる。特に「乞食が王侯の兄弟となる」の表現は過激で、いかにも反権力的なニュアンスが含まれるが、「すべての人々が兄弟となる」と意味的には似ている。しかし、ベートーヴェンの「第九」の中心イデーとしてこの一節を考えた場合、Alle Menschen werden Brüderからは身分階級を超越した普遍性を読み取るべきだろう。

8) 「歓喜」主題の旋律的源泉(?)

「平野昭：私見としては否定。つまり、「第九」から遡って似たような旋律を探し出し、それが「第九」に収斂するという考え方はあまりにも短絡。但し、ひとりの作曲家が個人的に気に入っていた音形素材を何度も使うことはしばしば見られるが、それら相互を有機的に関連付ける根拠はない。あるいは、同じ理念を表現するとき作曲家が個人的にもつ美学や音楽観から似たような表現方法(旋律形)をとる可能性を否定するものではない。」

一般的に「第九」の「歓喜主題」と似た旋律をベートーヴェンの旧作中に求めて、その時点から「第九」が発想されていたかのような俗説解説記述が多く見られる。その当否は前述した私見理由からも、あまり強調されるべきではない。なぜならば、そうした俗説が「第九」解釈を誤った方向に導きかねないからである。

この前提を踏まえた上で、これまでの「第九」受容史のなかで踏襲されてきた、いかにも「それらしい」旧作例を参考として列挙しておく。

1：歌曲「愛されない男のため息&応えてくれる愛（相愛）」WoO118（1794/95年）

2：歌劇《フィデリオ》第1稿（1804/05年）

3：合唱幻想曲Op.80（1808年）

4：チェロ・ソナタ第5番Op.102-2（1815年）

5：「盟友歌」Op.122（1790年代着手、1823～24年に2稿、オーケストラ版）

以上5点の中でよく言及されるのが歌曲WoO118《愛されぬ男のため息、応えてくれる愛》の後半「応えてくれる愛 Gegenliebe」であり、この旋律を引用したOp.80の「合唱幻想曲」終結部前の合唱主題である。

9) 第4楽章の形式構成と表現語法

第4楽章全体を見渡すと、楽章構成はまさに複合というコンプレックスそのものであり、単一の形式原理や構図では説明できない。多種多様な形式や表現語法を盛り込み、組み合わせた複合形式と見れば、各部分は、むしろ、単純明快な形式構成として分析しうる。

◎全体を貫く基本的構成＝声楽（四重唱）をコンチェルティーノとする協奏曲形式

◎全4楽章を有機的に統一する主題法＝開放的循環形式

◎主要展開語法（技法）＝変奏曲形式

◎主要な展開技法＝器楽レチタティーヴォ、変奏、フーガ、コラール

◎主要挿入楽段（変奏のひとつ）＝トルコ風行進曲

◎主要挿入楽段＝二重フーガ

◎主要（協奏曲原理に必要な要素）挿入楽段＝カデンツァ（四重唱）

10) 第4楽章の音楽推移

小節調性詩節音楽内容

[第1部：第1呈示部＝オーケストラ呈示部]

1 二短調「恐怖のファンファーレ」：イ音バス上の変口音の不協和。

8 二短調チェロ＝バスによる「否定のレチタティーヴォ」。

30 二短調第1楽章イニシャル（開始）主題回想。4分の2拍子。

38 八短調「否定レチタティーヴォ」

48 イ短調～ヘ長調第2楽章イニシャル主題回想。4分の3拍子。

56 ヘ長調「否定レチタティーヴォ」

63 変口長調第3楽章イニシャル主題回想。4分の4拍子。

65 変口長調チェロ＝バスの逡巡。4分の3拍子。

72 嬰ハ短調「否定レチタティーヴォ」

77 二長調妥協主題「歓喜主題」の胚芽の呈示。

92 二長調第4楽章主要主題としての「歓喜主題」提示

116 二長調歓喜主題：変奏1

140二長調歡喜主題：変奏2

164二長調歡喜主題：変奏3と発展拡大

[第2部：第2呈示部＝協奏的声楽呈示部主部]

208二短調「恐怖のファンファーレ」の再現

216二短調バリトン独唱により、ベートーヴェン作詞の3行「おお、友よ、このような調べではない nicht diese Töne もっと心地よく喜びに満ちた歌を声を合わせて歌おう」。第1部でのチェロ＝バスによる「否定」の意味が明かされる。

241二長調1v歡喜主題：変奏4

257合唱Deine Zauber binden wieder

269二長調2v歡喜主題：変奏5（四重唱Wem der grosse Wurf）

284 合唱Ja, Ja, wer auch nur eine Seele

297二長調3v歡喜主題：変奏6と発展、副主題部への移行

（四重唱Freude trinken）

313合唱Küsse gab sie uns und Reben

[副主題呈示]

331変口長調副主題部導入＝変口長調（ソナタ形式での第2主題部）

343変口長調歡喜主題：変奏7としての「トルコ行進曲」

375変口長調4c歡喜主題：変奏8としてのテノール独唱

[展開部]

431変口長調歡喜主題によるフガート（器楽）

543二長調1v歡喜主題：変奏9（合唱Freude, schöner Götterfunken）

[エピソード]

595ト長調1c「Seid umschlungen」2分の3拍子。コラール様式。

611ハ長調1c「Brüder, über' m」

627ト短調3c「Ihr stürzt nieder」

655 二長調1v & 3c二重フーガ4分6拍子。

730二長調3cエピソード

745二長調1cエピソード

[再現部的終結部]

763二長調1v歡喜主題に基づく終結第1部

832二長調四重唱による技巧的カデンツァ

851二長調1c終結第2部

904二長調1v終結第2部の拡張

999二長調歡喜主題による終結第2部